

# 令和5年度 事業計画

## 1 基本方針

人口減少と高齢化率の上昇が加速する山武市において、地域の高齢者が担うべき役割は年々増加しています。今や元気な高齢者は「支えられる側」から「支える側」へと大きく姿を変え、地域のニーズの受け皿として欠かせない存在となっています。自ずと、元気な高齢者が地域社会への貢献を目的として活躍する山武市シルバー人材センター（以下、「センター」という。）への注目度も増してきています。

コロナ禍以降、長期に渡り様々な制限を強いられ、生活様式も従前とは違うスタイルを世間が自然と受け入れられるようになり、センター事業活動も様子を変えていく必要がありました。守るべきは、会員の皆さんの健康であり、ウィズコロナの時代であっても、皆さんが安心して就業できる場としての事業活動を推進し、生涯現役人口の増加にセンター事業が有効であることを、多くの市民に理解を得られるよう活発な事業展開を実施します。

まずは、安全就業への取組みを第一とし、会員各自が自分の体力を知ることにより、無理をしないで作業が行える環境の構築を目指します。その為に、山武市の転倒骨折予防プロジェクトの一つである安心安全就労サーベイの開催と、この事業と連動した「健康になる就労」プロジェクトを医療専門家の知見のもとに立ち上げ、会員アンケートによる健康状態の把握や、会員が自己管理で健康な体を維持できるよう対処法レッスン会の開催等を行い、会員自身による健康意識促進を考えた新たな手法も取り入れ、「明るく元気な100歳へ」に向けた健康関連の各種事業活動を行います。

もちろん就業時の安全確認の徹底を引き続き呼びかけ、会員が事故を自分事と捉え作業前安全確認の徹底や就業前ミーティングの励行を、安全委員会が中心となり指導していきます。また、残念ながら同種の事故が減少しないことからペナルティー制度の導入への検討も引き続き行います。

健康と共に、これからの高齢者にとって生活に必要な道具としてスマートフォン（以下、「スマホ」という。）があります。今の時代に併せた会員のデジタル化は不可欠であり、スマホを所持する会員が各々で便利な機能を理解し安全に使用できるよう、スマホ教室を開催し会員のデジタル化を推進します。これにより、ホームページでの情報発信の共有や、会員間の情報

共有、ペーパーレスに向けた事務の効率化等を行っていきます。このような活動から、新たな層の入会促進活動にもつなげていきます。

そこで、重要となるのが「えるワークさんむ」の周知活動です。センターにとって会員の就業は不可欠ですが、就業だけではない地域のボランティア活動や親睦交流活動等各種様々な事業を実施することで、会員が魅力あるセンターだと感じる事ができ、併せて市民の皆様から愛されるセンターを目指していかなければなりません。センター未加入の市民の皆さんがセンターに加入してみたいと考えてもらえるよう、高齢者が憧れる魅力あるセンター事業の発信を様々な場面で行っていきます。

センターは、地域の高齢者が就業を行うことで活躍できる居場所の提供を行い、また、各種事業を通し地域の皆さんとの交流が図れ、会員が慣れ親しんだこの山武市での生涯現役社会の増進を担っていきます。そして、地域社会における福祉の活性化に寄与していきます。就業を通し、多くの仲間が得られる組織であることを、従来の就業だけではない新たな一面も見せてウィズコロナの時代であっても積極的な事業活動を推進していきます。そして、地域に根差し多くの市民の皆様から信頼され愛されるセンター事業を、会員の皆様と共に役職員が一丸となり事業を展開していきます。

## 2 基本項目

- (1) えるワークさんむ ～会員拡大～
- (2) しるばあママ ～女性会員活躍～
- (3) 「健康になる就労」プロジェクト
- (4) デジタル化推進事業
- (5) 安全就業の徹底
- (6) 組織体制の充実

### 3 事業実施計画

#### (1) えるワークさんむ ～会員拡大～

|     |   |
|-----|---|
| える  | 年長者を意味するエルダーに由来し、仲間を得る・収入を得る・居場所を得るの「える」です。 |
| ワーク | 働くことや学ぶことを意味します。                            |
| さんむ | 私たちが暮らす山武市                                  |

高齢化率の上昇が叫ばれているにも関わらず、センター会員の増加は厳しく、反対に加齢による体力の衰えから退会を希望する会員も少なくないことから、シルバーのイメージを一新するために皆さんに親しんでもらえるように新たな愛称を考え、これにより、躍動感があり若々しく楽しさも感じられるセンター作りを行います。

就業で一番難しいのはマッチングですが、会員の希望やできることをできるだけ事務局が把握し、その人に合った就業をお願いできるよう事務局と会員との距離感をできるだけ短く保てる工夫を進めていきます。会員にとって、困ったときに相談できる事務局運営を推進します。

##### ① えるワークさんむの周知活動

広報紙や事務局だよりを利用した周知活動と、各種事業での名称の紹介を行い、シルバーの魅力を広く市民にもピアールを行い、会員の入会促進活動につなげていきます

##### ② 全国シルバー人材センター事業協会の掲げる会員 100 万人計画

第3次中期計画では、令和5年度末会員数を486人とし、女性会員の増加を中心に会員増を図ります。

##### ③ 退会会員の抑制

就業が難しい会員へは、事業活動には参加できるプラチナ会員への移行を促し、引き続きセンター事業を通し地域社会とのつながりを得られるよう声掛けを行っていきます。

##### ④ 定年退職者への呼びかけ

企業等の定年退職者に対し、シルバー事業の紹介を行い、定年後の働き方の一つとしてセンター事業を紹介していきます。

**えるワークさんむ**

## (2) しるばあママ ～女性会員拡大～

千葉県内では高い女性会員率を有するセンターですが、人口比率から見ると女性会員の入会率は低く、就業を希望する女性会員だけでなく、幅広く独自事業活動や各種事業活動においても活躍できる場がセンターにあることを紹介し、多くの女性が楽しんで参加できる事業を推進していきます。

女性の就業意向等につきアンケート等を利用し調査を行い、新たな就業先の確保や女性に見合った就業先の提供等を推進します。

### ①しるばあママの周知活動

女性会員の新たな愛称として、しるばあママが定着できるように広報紙等での紹介や、各種事業での紹介を行います。

広く女性の就業状況を広報することや、各種事業での女性会員の協力体制を紹介し、未加入女性に対しセンターにおける女性会員の魅力を発信していきます。

### ②すみれの輪の開催

女性部会が中心となり、女性会員が楽しめ親睦交流活動が行える事業を開催します。また、この会には一般市民も参加が可能なことから、入会促進にも役立てられるよう事業を行います。

### ③女性役員等の増進

千葉県内では上位の女性会員比率を誇るセンターではありますが女性理事を含め各種委員等においても、女性会員の占める率は会員比率と比較すると低い状態となっています。女性会員の声を組織運営に反映させられるよう女性役員を増進を行います。

### ④高齢者支援や子育て支援の充実

女性会員の能力発揮の場として支援事業の充実を図ります。関係機関への周知活動や事業を実施するにあたっての各種研修等を開催し、女性会員が就業を行いやすい環境作りを整えていきます。

### ⑤すみれサークル活動

女性会員による小物づくりを定期的に山武地区で行います。女性リーダーを中心に、ニーズの高い作品や新製品等を女性会員自ら考案し作成をしていきます。

ゆっくり にっこり たっぷり 支援隊

私たちは しるばあママ 

### (3) 「健康になる就労」プロジェクト

山武市が推進する高齢者の生涯現役人口の増加を目的とした転倒骨折予防プロジェクトに基づき、明るく元気な100歳へ向けた取り組みを進めていきます。

これは、いくつになっても住み慣れた地域で自分らしい現役生活を続けられるよう、「生涯現役でご活躍」を応援する市の高齢者福祉課を中心に、社会福祉協議会等の関係機関とも連携を組み、専門家のアドバイスのもと官民一体で取り組みを行います。

#### ①安心安全就労サーベイ（測定会）の実施

日常生活や就業で必要なからだの機能をはかり、快活な生活を送れるよう今の自分のからだの状態を測定します。

（健康診断ではないので、悪い個所を見つけるためのものではありません。）

対象者は、令和4年被験者と約100人の新規被験者を予定しています。

また、運営にかかわるスタッフも測定会経験者の会員の中から、協力を得ていきます。

#### ②わたしの健康プラス（測定会）への協力

山武市で実施する測定会の運営協力をセンターでも行い、安心安全就労サーベイへの開催へとつなげます。

併せて、参加者の皆さんへシルバー事業活動の周知を必要に応じて行います。

#### ③いきいきわくわく教室とはなまるサロンへの協力

山武市社会福祉協議会で実施していたいきいきわくわく教室を令和4年度より引き続き運営の協力を行い、会員の皆さんへも参加を呼びかけ会員間だけではない交流を行います。

会場では、すみれサークルの物品販売やセンター事業の紹介も行い、周知活動を行います。

#### ④プロジェクトチームの発足

日本医科大学衛生学公衆衛生学准教の陣内裕成先生を、安心安全就労アドバイザーとしてお迎えし、専門的な知見の教示を受け、安心安全な就業システムの構築を目指します。

その為に、会員の就業の実態調査や、会員へのアンケート等により会員自身の身体の不具合等についての調査を行い、明るく元気な100歳へを目指せるよう活動を行っていきます。

チームは定期的に会議を行い、けがを伴う事故の分析や会員にとって必要な対処法レクソン会の開催等について陣内先生を主軸として協議を進めていきます。

必要に応じ、安全委員会との連携も行い、会員がより安全に就業できるよう整備をしていきます。

#### (4) デジタル化推進事業

世の中は確実にデジタル化へと変化を続けています。政府が進めるマイナンバーカード制度に始まり、高齢者でも世間の変化と同様にデジタル化社会との共存は余儀なくされています。

会員のスマートフォン（以下、「スマホ」という。）所持率は年々増えていますが、利用頻度は電話の送受信のみという会員も少なくはありません。そこで、高齢者にとって必要なスマホの有効活用をセンターでも推進していきます。

スマホの利活用によるタイムリーな情報の共有は、事務の効率化も図ることが可能になり、会員の就業機会の向上にもつなげていくことが可能になります。

また、就業を離れた趣味の場面においても、高齢者が安心して楽しめるスマホ利用に役立てられるお手伝いをセンターが行います。

少なくとも、スマホを所持する会員が、センターのホームページにリンクができ、必要な情報を得られるように進めていきます。

##### ① スマホ教室の開催

令和4年度デジタル活用支援推進事業の講師を中心として、会員や市内高齢者に無料のスマホ教室を開催します。同世代の会員が講師をすることで、参加者が参加しやすい教室としていきます。

##### ② SMS（ショートメッセージ）を利用した情報発信

ショートメッセージ機能を利用した情報発信をセンターから行いタイムリーな情報が提供できるようにします。

まだ、受信が不得意な会員もいることから、①のスマホ教室を通して皆さんへ活用についてのお知らせを行っていきます。

##### ③ スマホ操作によるアンケートの実施

様々な場面において、会員への意見の聞き取りは事業を進めるにあたって行うことは必要であり、事務の効率化も進められる事からスマホによるアンケート調査の普及を図っていきます。

##### ④ ホームページの充実

スマホからもセンターのホームページにリンクができるよう機能の紹介を行い、情報発信に役立てていきます。

## (5) 安全就業

会員が安全に就業を行えるよう、引き続き安全に関する情報の提供や安全講習会を安全委員会が中心となって行っていきます。

全国的に減らない草刈による飛び石事故の対策をセンターでも行い事故は「他人事」から「自分事」に考えてもらえるよう取り組みを行います。

### ①草刈による飛び石事故の削減

全国的に見ても、賠償責任事故の第1位は草刈機による飛び石事故です。これは、当センターでも同様であり、同種の事故を削減することが喫緊の課題になっています。

その為に、まず職群班長主導による職群班体制の強化をしていきます。職群班全体での就業前の危険個所の確認や就業前ミーティングの徹底を強化し、危険個所には安全対策を行ったうえでの作業を実施し、会員がより安全に作業できるよう整備を進めます。

### ②交通安全教室の開催

全国的に高齢者の交通事故が多発していることや、交通法令の改正等も多くあり、必要に応じ交通安全にかかわる教室を開催し、就業途上の交通事故ゼロを目指します。

### ③ペナルティー制度導入の検討

同様の事故が減らないことから、事故を起こした当事者及び班体制での就業の場合は、班全体への事情聴取等を行い、事故がどうして起きてしまったのか？をしっかりと検証し、再発事故の防止に役立てていきます。

事故が減少しないことから、今より高額な保険に加入することになった場合には、免責付きの保険に加入し事故者から免責金を徴収することの検討を始めます。

## (6) 組織体制の充実

第3次中期計画に基づき事業運営を行い、令和5年度10月に開始予定のインボイス制度への対応や、変化するシルバー事業に即応できるよう役職員での情報共有を図ります。

### ①適正就業の推進

適正就業ガイドラインに基づいた事業運営を行います。その為に必要に応じ役職員研修会等の開催や、発注者への個別説明等を丁寧に行い、適正就業への理解を深めていきます。

②関係機関との連携強化

市役所を始めとした社会福祉協議会等の関係機関との連携を強め情報共有等を行い、センター事業の発展へとつなげていきます。

③各種研修会への参加

役職員が積極的に外部研修会等に参加し、必要な情報を収集し、コンプライアンスを遵守した組織運営を行います。

④役職員研修の開催

必要に応じ、先進センターへの視察訪問や、外部講師による研修会等を開催し、知識を深め円滑な組織運営が行えるよう整備をしていきます。

⑤インボイス制度への対応

予定どおりにインボイス制度が開始された場合に備え、必要な情報を入手し対応ができるよう整備を進めます。

⑥さんむSDGs パートナー

シルバーは、SDGs の 17 の目標に合致する多くの事業を行っていることから、山武市とパートナー宣言を結び、センター活動の理解を広く市民の皆様に進めていきます。

⑦職員研修の実施

変わりゆく社会に即応できるよう、必要な研修会等に参加し、知識を深め、円滑な組織運営を行えるよう整備していきます。

シルバー人材センター

